

世界の至宝英から来日



【発行所】

都立西高校新聞部
東京都杉並区
宮前4-21-32
(3333)7771

発行

西高新聞部有志

- 3年 黒田
- 3年 竹内
- 3年 飯尾
- 3年 江渡
- 2年 鈴木

自然史数千年の重み

三月一八日から六月一日まで国立科学博物館(科博)で特別展「大英自然史博物館展」が開催されている。それに先駆け一七日報道内覧会が行われ、報道機関の他に西高含む三校が取材に参加した。(蒼雷・福沙)

この展覧会は、その名前にも冠されているように、大英自然史博物館のコレクションの一部を展示する特別展である。

大英自然史博物館とは、イギリスのロンドン・サウスケンジントンにある、世界最大級の自然史標本のコレクションを所蔵する博物館だ。毎年約五百万人が訪れる、イギリスを代表する観光スポットの一つとなっている。元々は大英博物館の一部門として始まったが、資料の量が膨大になってくると、大英博物館には収蔵しきれなくなった。そのため別館を設ける案が生まれ、一八八一年に大英博物館の別館としての自然史博物館が開館した。その後独立し、一九九二年に改名されて今に至る。現在同博物館では動植物や化石、岩石、鉱物の標本のみならず、希書や絵画も含めた約八千

万点のコレクションを所蔵している。特に自然科学関係の蔵書数は百万冊を越え、イギリスにおいては最大だ。

この特別展では、そのコレクションから厳選された約三七〇点を一堂に展示する。ダーウィンが記した「種の起源」の草稿や、始祖鳥の実物の化石といった有名なものから、所有者に多くの不幸をもたらしたと言われる呪われたアメジスト、地質学の基礎を築いたウィリアム・スマスによるイギリス地質図等、日常生活では存在を知ることもないようなものが幅広く揃う。



↑異国感あふれる看板

同日テーブルカットセレモニーで本特別展が封切られた。テーブルカットは科博責任者を始め、本特別展開催に関わる読売新聞社の代表など五人が担当した。

その後篠田謙一副館長により、過去、現在そして未来の自然史博物館の在り方、社会との関わりについて話があつた。展示を見ることが今の自然史の博物館は何を目指しているのか考えてほしいと語った。

報道内覧会に替入

今回で九回目となる。この企画が実現した背景には高校生に博物館について知ってもらいたい、また一般の報道機関に交じって取材を行い、本物の経験をしてもらいたいという国立科学博物館関係者の思いがある。会場にはテレビや新聞、雑誌など、高校生を含め一九五人の取材陣が詰め寄せ、多くのメディアが本企画に関心を抱いていることがうかがえた。

報道内覧会に替入

途中、西高新聞部も報道関係者から取材を受けた。体験した部員は「話す側が話しやすい聞き方をされていて、自分たちがインタビュウをするときの参考になった」と振り返った。

監修者

インタビュウ

本展総合監修の篠田謙一副館長に話を聞いた。(来瑠・夢窓)

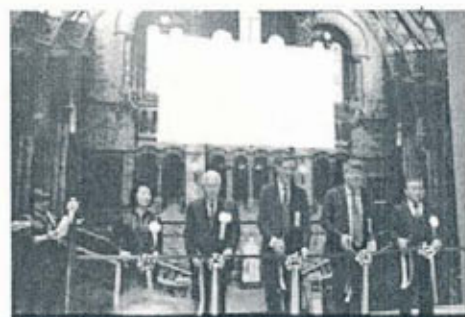
大英自然史博物館の収蔵する標本の中から、どのようにして今回展示される約三七〇点が選ばれたのですか。

最初にこういうものが貸し出されますというリストが来るんですよ。それを見て、こういう標本だとどんな話が作れるかなっていうのをこちらで相談するんです。その中でこれはいらないうとか、これはぜひ貸してくださいといったものが出てきまますから、そういう交渉を何回かして、その中でこういう展覧会が作られていくんです。

——押ししの展示品を教えてください。

ビルトダウン人という偽物事件の骨が出てるのでぜひ見てほしい。偽物なんてもう絶対に展示に出ないので。なぜイギリスはそんな偽物でも取っておいているのかっていうと、証拠になるものを取っておくと後からなぜ騙されたんだらうと考えることができるし、また別の化学分析をすると今までわからなかったこともわかったりするわけですね。そういうためにも資料は必ず保存して、次の時代も研究できるようにしておく。それは博物館の一番大事な役割なんです。来場する高校生に何を学び取ってほしいですか。

今の私たちが一九世紀ぐらゐの時に生まれた科学の理論をものすごく使ってるわけですよ。そういう様々な理論が生まれる直接の証明になるような標本がたくさん来てるから、単に教科書で習うような理屈はその後のところでいったい何が行われていて、どの標本を見てそういうことがわかったんだらうっていうことを実感してもらおうのがすごく大事なことでと思います。教科書に書いてあることを暗記しても、なかなか覚えられないですよ。そこに至るまでいったい何が起こったのだから、っていうそれまでの経緯、歴史を知ることの直接的な手段だということを知ってほしい。



→テーブルカットの様子

メインである自由内覧の時間では、参加者は各ブースにいます。研究者を囲んで質問をする他、思い思いに展示を楽しんだ。

珠玉のコレクション 日本に集結

大英自然史博物館展で展示される日本初公開のものをいくつか紹介する。(少年・夢)



↑始祖鳥の化石

本展の目玉標本の一つが、始祖鳥の化石だ。一八六一年に発見され、進化論の議論において重要な位置を占めたものである。始祖鳥の化石は十個程発見されており、今回展示されるロンドン標本はその中でも研究において多くの役割を果たしてきた。当初頭部は残っていないと考えられていたが、石の中に埋まっていたことが後にわかった。

二〇〇四年にCTスキャンが用いられ、頭部の骨から脳と三半規管が復元された。それにより、始祖鳥は脳の視覚を司る部分や平衡感覚が、鳥類のように発達していた可能性が高いことがわかっていく。二〇一一年に、ロンドン標本は学名の基準となるタイプ標本に認定された。始祖鳥は最古の鳥類なのか、それとも恐竜なのか。また、飛ぶことができたのか。それらの議論はロンドン標本の研究を交えて現在も繰り広げられている。

科学史上最大のねつ造事件

九五〇年代、新たに化学分析が行われた結果偽物であることが判明した。なぜ、ビルトダウン人の化石は数十年の間研究者たちを騙し続けられたのか。当館監修者の一人、門馬研究員(地学研究部)は「非常に高いことがわかっていて、彼がアマチュアの考古学者であったこともあり、富や名声を求めて犯行を行ったのではないだろうか。」

「種の起源」の初版は一八五九年に発行された。生物の種は進化によってもたらされることなどが記されている。今日の研究に繋がっている。今日の研究に繋がっている。生物を学ぶ上での重要な概念だ。その本が当時大きな論争を生んだことは、広く知られているところである。神が万物を作り上げたという思想が世界中で一般的であった時代に、そのようなアイデアは革新的なものだった。

ダーウインの手稿 日本初公開



↑『種の起源』手稿

初版出版の二年後、始祖鳥の化石が発掘された。第六版には始祖鳥が登場しており、始祖鳥は鳥類と爬虫類の間に橋を架けることを可能にしている、という内容の記述がある。恐竜と鳥類の起源については、現在の最先端の研究が明らかにしようとしているところだ。だがその遙か昔に、ダーウインは恐竜が鳥類に進化した可能性について予言していたのである。

大英自然史博物館は、頭骨片と下顎骨が偽物であると判明した後、それらを廃棄せず、保管を続けてきた。ねつ造であったとしても沢山の研究、分析によって今後も新たな発見を得ることができると言っている。



↑ビルトダウン人の頭骨片と下顎骨

この偽装事件の犯人は正確には特定されていない。しかし、最近の研究で第一発見者のチャールズ・ドーンである可能性が非常に高いことがわかっていく。彼はアマチュアの考古学者であったこともあり、富や名声を求めて犯行を行ったのではないだろうか。

文理の眼

文系の部員、理系の部員が今回回覧会に参加して考えたことをそれぞれ述べる。この特別展を知るうえで少しでも参考になれば幸いである。(来瑠・少年) 文系 「大英自然史博物館展」と聞いて、文系志望の人間にとっては関心が向くにくいかもしれない。しかし、この展覧会では文理の専攻を問わず、様々なことを学ぶことができると声を大にして言いたい。 例えば、展示の一つに明治時代日本に落下し、ロンドンに渡った隕石がある。なぜ日本で採集された物が英国で保管されて

いたのか。監修者の一人である米田成一グループ長(理工学研究部) 理化学グループ)によると、当時日本には最先端の科学技術がなかった。そのため日本は英国など欧米の科学者による調査に頼らざるを得なかった。このように、意外なところで日本の歴史と関連を見出したことが興味深く感じられた。また、「学問は全て繋がっている」ということも改めて実感できた。 文系の諸君も、ぜひこの特別展を訪れてみてほしい。きっと新たな知識や興味、関心を得ることができると言える。

「自然史」という言葉は、「自然」の「歴史」という意味を表す。この言葉を耳にしたとき、理系の科目には、歴史なんて関係がなさそうなのに、と不自然に思った人もいるだろうか。 私たちは科学のことになる。最新の技術を知りたいが、どうしても未来に目を向けがちである。しかし、現在様々な科学技術が存在するのは、現在常識といわれる知識を最初に考え出し、実証した先人たちのお陰であることも忘れてはならない。 この展覧会では、先人たちが残した数々の展示品に触れることで、理系科目の授業では深く扱われない「時間」という観点からも科学の歩みを感じることが出来る。今、目の前にもある柔らかな視点を身に付ける絶好の機会となるはずだ。

編集後記

*西高新聞部史上初の報道内覧会に参加してきました。とても緊張しましたが良い経験になりました。 (少年) *ただの高校生が一限りの報道マンに。貴重な体験がありがとうございました。ちなみに、開扉後行ったものすごい人で驚きました(後日談)。 (来瑠) *内覧会寸前に胃腸炎で寝込み欠席しました。とても悔しい。あと胃腸炎異常に辛かったです。皆さんも季節の変わり目、体調にはお気をつけて。 (蒼電) *久しぶりに新聞部員やらせてもらいまして楽しかったです。動き回ってる始祖鳥やドードーがとってもかわいかった。(夢) *自然史が色々なことに繋がっていることを知り、ワクワク感が増えました。もう一回行きます。いや行かせてください。(福沙)

都立西高等学校新聞部